結 ゆいっこ 盛岡新聞
ぼくらの復興支援 IWATE YUICCO
vol.4 発行日／2011.8.31
編集・発行／いわてゆいっこ盛岡
〒020-0866
岩手県盛岡市本宮 5-10-20-120 号棟
Tel：090-4476-7083
Mail…… morioka@yuicco.com
Blog …… http://yuicco.com
Twitter …… iwate_yuicco

活動報告

日用品・古着の無料バザー、喪服の無料バザー@宮古市磯鶏小学校体育館

◉活動レポート／長谷川

7/30、31の2日間にわたり、宮古市立磯鶏小学校体育館で、3回目となる無料バザーを行いました。提供した物資は地元の上村地区町内会、札幌のカリタスジャパン、私たちいわてゆいっこ盛岡がそれぞれ募り、調達したものです。

1日目は日用品。午後2時からの予定でしたが、午前10時頃には人が並び始めたとの情報が入り、焦りながら準備を進めました。前回までの公民館の何倍もある広さの体育館に並べると、大量だと思っていた物資も少なく見えます。

いよいよスタート。みなさんお目当てのコーナーめがけて駆け出し、会場はすぐにいっぱいに。事故を防止するため、一旦入場制限をかけました。人気が高かったのは食品や制汗スプレー殺虫剤などの衛生用品。ゆいっこメンバーお手製の梅干はとても喜ばれました。ほとんどの物に個数制限を付けていましたが、最初に入場した方たちが帰る頃には、古着やトイレットペーパーなどの一部の品物しか残っていませんでした。その後も終了時間の3時半まで人の流れは続きました。

▲入場制限をかけさせて頂きましたが、止まらない人の波。品物事に分類されたブースで、皆さまお目当てのものを手にされていました。

それから地元のお手伝いの方々とお茶っこを飲み、翌日の準備にかかりました。夕方、日帰りするメンバーを見送り、残る10名がコーディネーターの須賀原さんのお宅へ。よく味の染みたお煮しめや天ぷらなど、おいしい夕飯をごちそうになり、にぎやかな雰囲気の中、お酒もすすみます。次の日のこともあるので、日付の変わらないうちに就寝。

2日目は今回の目玉である喪服です。紳士物が約200点、婦人物が約500点。用意した40本のハンガーラックにかけきれないほどの点数が集まりました。お供え用の線香・ろうそくのセットも準備万端。ゆっくり選んでもらいたいので、この日は前日よりも少ない人数で入場してもらいました。普段にも着られる黒いブラウスやジャケット、スカートなどもあり、みなさん1点、2点と手に取っては鏡の前で当てたり、試着したり、思い思いに選んでいました。予定通り11時半に終了し、お昼を取るために会場を離れようとしました。でも引き続きちらほらと人がやってきます。午前中に取材、お昼に放送されたNHKのニュースを見たという方々でした。せっかく足を運んでくださったので、2時頃まで延長することに。

◀サイズ分けしてハンガーにかけられた品々を手にとり、思い思いに選ばれていました。

前日ほどの混雑ではなかったので、接客しながら被災者の方と少しお話する機会がありました。津波が来た時のこと、現在の生活や仕事のこと。話し始めると止まらない人もいました。みなさん口を揃えておっしゃるのは、「全部流されてしまったので助かります。」ということ。震災後、お葬式などには借りた喪服で参列していた人も少なくないそう。自分の生活を取り戻すお手伝いが、少しはできたかな、と思います。

事前の打ち合わせで、「足が無いから行けない」という声を耳にしていました。そこで、日頃私たちがお世話になっているOKバスさんにご協力いただき、両日とも3か所の仮設住宅を回る無料送迎バスを運行、大好評でした。こうして2日間のバザーは、大成功に終わりました。

今回初めて経験したことが2つあります。30日の午前中には、盛岡市立見前中学校の生徒さん約40名が、喪服や今後仮設住宅に配布する敷きパッドの運搬を手伝ってくれたこと。そして、盛岡商業高校2年の女子生徒2名が、泊りがけで参加してくれたこと。この先10年近くかかるであろう復興に向け、支援活動の中心となる若い世代の方たちが、現地での活動に関わってくれたことを、心強く、励みに感じました。

バザー開催に当たり、たくさんの方から様々なご支援、ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

▶メンバー全員で。高校生２名＆名古屋からも泊りがけで参加頂きました。

「夢灯り」と「涼み台」作り@宮古市田老

◉活動レポート／熊谷・大矢

震災から5ヶ月となる8月11日、田老で『田老防浪堤夢灯り』というイベントが行われました。今回の震災でお亡くなりになられた方、行方不明の方189名の霊を供養する為に、その方々の数だけ夢灯りを作る、という内容でした。

同時に、仮設住宅にいらっしゃる方々に涼んでいただくためのベンチ作りを行いました。ここグリーンピア三陸宮古には407戸の仮設住宅があります。そこに住んでいらっしゃる方々の憩いの場、または高齢者の方々の休憩の場として新しいコミュニティーの場ができたら、という想いからの作業です。2～3人が座ることのできるベンチを50台完成させる、ということで、その作業のお手伝いをしてきました。

今回私達に夢灯り作りの指導に当たって下さったのは小向さん、というイベントの実行副委員長さんでした。作成中、取材のテレビ局、新聞記者、知人の方々が次々と訪れ、お忙しいところ終始笑顔で冗談を交えながら、楽しくご指導くださりました。

夢灯り作りは、【牛乳パック解体】→【デザイン画の写し】→【カッターでの切り込み】→【中の色付け】→【組立】→【外の色付け】というように大きく6段階の行程に分かれていました。震災前は6冊以上のファイルにびっしりデザイン画がストックされていたそうですが、今回の津波で全て無くなってしまったそうです。私達が今回お借りしたデザインは、震災後指導くださった小向さんが作りためたものだそうですが、それでも多くのデザインがありました。小向さんがおっしゃっていた、今回お亡くなりになった方々分の夢灯りはいろいろな方々の手によって準備が進められてきたようです。

また、ベンチ50台分の木材は、この活動にご賛同くださった宮古市赤前の木材店ハセガワ様に寄付して頂きました。

小向さん、長谷川木材店様をはじめ、今回の活動を行うにあたりお力をお貸しいただいた皆様、本当にありがとうございました。

◀地道な作業工程で完成させた夢灯り。想いが込められた作品です。

＜活動レポート／熊谷さつき＞

初めての夢灯り作りは上手に作れるかワクワクしながらバスに揺られ田老まで2時間。

本日ご指導いただく小向さんに案内され作成場所の公民館に入ると、既に出来上がった夢灯りが何十個と並べられ幻想的な雰囲気に「わぁ」と感嘆の声があがりました。

小向さんが書きためたたくさんの原案からそれぞれ自分の好きなデザインを選んでいざ作成開始です。牛乳パックを切り、パックにデザインを書き写し、線に添ってカッターで切り込みを入たりと皆で談話しながら和やかに作業は進みました。でも切りすぎないよう目は真剣、手は慎重に…きれいにスパッと紙が外れると気持ちよく、次への手の動きも進みました。最後の色づけでは仕上がる度に「綺麗だね!の声と自分達の作った作品を記念に撮影しながら楽しく終えることができました。

＜活動レポート／大矢真弓＞

※彼女は女性ですが、いつもは男性に交じってバリバリはたらいていらっしゃる大工さんです。

今回、初めてボランティアに参加させて頂きました。被災された人達と、ベンチを50個作るという事で、50個も作りきれるかな～とか、みなさんと仲良く出来るかな～などという不安もありながら、現地へ向かいました。

現地に着いて、作業を開始すると、1人また1人と参加してくれる人達が増えていきました。最初は、それぞれバラバラの事をしていたり、何をしたらいいか分からなそうにしている人もいましたが、時間が経ってくると、声を掛け合ったり、協力したりと、どんどん良い流れになっていきました。

最終的に、全部終わる事は出来なかったのですが、当初の目標の30個以上は作る事が出来ました。

◀地元の方々と声を掛け合いながらの作業で、流れもスムーズに。

復興バザー@盛岡市アイーナ

◉活動レポート／遠山

▲宮古で被災された「藤勇醸造味噌醤油」さんのお醤油も販売されてました。

7月24日、日曜日。アイーナ4階にて復興バザーが開催されました。地元の特産品、復興Tシャツ、タオル、衣類、手作り用品…各ブースでは様々な商品が販売されていました。

今回ゆいっこでは二名のスタッフがバザーのお手伝いとして参加。多くのお客さんがブースに足を運んでくれました。

最初は「いらっしゃいませ!!」とお客さんに声をかけることさえもぎこちないスタッフ二名でしたが、時間がたつにつれ、少しずつ商品のPRもできるようになりました。

手作り用品のなかでも、ハーブ石鹸は人気商品でした。手作り巾着、ティッシュケース、宮古復興Tシャツ、特産品…、宮古市の方々の「気持ち」がこもった商品が、お客さんの手元に届けられていきました。その他にも、鮭の切り身Tシャツなど、ここでしか購入することのできない、個性的な、マニアックな商品もちらほら。ちなみに、私は鮭の皮で作られた栞を買いました。とても素敵な栞です!

◀「SELP わかたけ」さんからの出品。右端が「鮭の切り身Tシャツ」。他のTシャツもユニークなデザイン。

今回バザーを担当してみての感想ですが、私自身の課題や反省点が沢山出てきました。もっとこう動けば良かった、ああすれば良かったと感じることも多かったのも事実です。ですがこのバザーを通して、宮古住民の方々に沢山のパワーとエネルギーを頂きました。とても気さくに振舞ってくださり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。感謝しています。ありがとうございます。

◀ブースの皆さんと記念撮影。笑顔の素敵な方ばかりでした。

少しずつ、自分にできることをこれからも続けていきたいです。

無料バザー@宮古市近内地区雇用促進住宅

◉活動レポート／長谷川

今回は宮古市近内地区にある雇用促進住宅に入居している、32世帯の被災者の方を対象とした無料バザーを行いました。4月上旬という早い時期に入居できた皆さんですが、その後行政との連絡が上手く行かなかったのか、これまで2回しか支援物資が届いていなかったとのこと。7月末の磯鶏小学校でのバザーの際に、宮古のコーディネーター須賀原さんに要望が上がり、急遽開催することになりました。

岩手県への支援物資から分けてもらった調味料などの食品や日用品、ゆいっこへの支援金で購入した野菜・果物をトラックに積み込み出発。

食品は住民の方々にもご協力いただき、袋や段ボールに等分にして各世帯に配りました。その後、日用品や衣類は集会所に並べた中から必要な物を選んで持ち帰ってもらい、午前中でバザーは終了。

◀地元の方々と一緒に物資を分ける作業。32世帯に等分し、配ることができました。

午後からは同じ集会所で住民、須賀原さん、宮古でくらしの相談所を開設しているみなさん、ゆいっこメンバーでのお茶っこ会を開きました。20世帯ほどの方々が参加してくださいましたが、そうやって顔を合わせるのは初めてのことで、集会所の存在すら知らなかったそうです。

まずは名前、震災前の居住地域、家族構成、ペットの有無などの自己紹介から。かなり広範囲の地域から集まったことが分かりました。取りまとめ役の方から、現在問題となっている事柄の説明があり、それについて皆さんから意見を募りました。

思うところは様々でしたが、それを表明はしても押し付ける人はおらず、リーダーを中心に協力して生活して行こうという姿勢が見て取れ、自治会が上手く回り出すであろうことが確信できました。

▲20世帯ほどの方々が集まったお茶っこ会。これを機につながりがさらにうまれるといいですね。

そのような状況の中、私たちはご挨拶しかできませんでしたが、これからも息の長い支援を続けて行くことを約束、次回は秋に交流会を開くことを提案して現地を後にしました。

◀須賀原さん宅で、スイカ＆枝豆をご馳走に。次は「秋刀魚の会」ですね。

物資募集

着物ハギレ
のご支援お願いします

連絡先:いわてゆいっこ盛岡
TEL／090-4476-7083
MAIL／morioka@yuicco.com

岩手県宮古市の有志の方々より、皆様にご支援のお願いです。
和服生地の**「ハギレ、もしくは反物状」**になっているもので**「絹」**のものをおゆずりいただけないでしょうか?10月23日に、盛岡市アイーナで開催される「復興バザー」にむけて、小物の制作をしたいのです。ふくさ・巾着・ポケットティッシュケース・名刺入れ etc あとはアイデア次第で色々作りたいそうです。ゆくゆくはこれを雇用につなげていきたいと思っているそうです。

材料としての生地をおゆずりいただける方は、左記までメールまたはお電話でご連絡ください。宮古市の送付先をお知らせいたします。(送料はご負担いただければ幸いです)

お願いしている物の条件が難しく、なかなかお譲りいただけるものではないことは理解しているつもりですが、少量でもご協力いただければ本当にありがたいです。

なお、第一回目の締切を**9月11日(必着)**とさせていただきます。よろしくお願いします。

会計報告

助成金が認可されました

震災から5ヶ月が過ぎました。私達の活動は3月25日から始まりましたが、毎日毎日が手探り状態。活動に賛同してくれる仲間が増え、支援したい内容もどんどん大きくなり、カンパ金だけでは活動資金が足りなくなってきました。

問題は、沿岸被災地に通うためのマイクロバス代金。これだけでも、何とかしないと…という思いで、3つの団体からボランティア助成金の募集があることを知り、応募しましたところ、みごと助成金の認可が下りました。ここで、報告させていただきます。

①2011年度　ザ・ボディショップ・ニッポン基金
20万円（満額）

②2011年度　大和証券福祉財団助成金
50万円（満額）

③日本財団福祉助成金（災害ボランティア部門）
100万円（満額）

これらの助成金につきましては、以下の用途に使われます。

●マイクロバス代金　●スタッフのガソリン代
●事務用品購入　●事務所の光熱費
●支援物資の購入　●ゆいっこ新聞の郵送にかかる費用

今までは清掃活動や無料バザーをメインに行ってきましたが、これから厳しい冬を迎える東北、仮設住宅の断熱材、玄関の風・雪よけの仕切り設置などの資材の購入も考えております。その時、その時に合った被災地支援のために、厳しい審査を通って認可された助成金を有効に使いたいと思います。

皆様からのカンパも引き続き、募集しております。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

◉報告／経理：杉山

TOPICS

【いわてグラフ（7月号）】で「いわてゆいっこ」が紹介されました。

顔の見える息の長い支援で
被災者に寄り添う
心の通ったサポートを

いわてゆいっこ

震災直後は炊き出しなどで被災地を支援。

支援する人、される人ではなく、人と人、心と心の付き合いを大切にしたい。そんな思いで活動する後方支援グループ「いわてゆいっこ」は、被災者と密な関係づくりをしながら継続的な支援を行っています。活動内容も幅広く、物資の提供、内陸避難者の支援、被災地でのボランティア活動、復興に向けた住民会議の支援など多岐に渡ります。

現在、支部は花巻・北上・盛岡・大槌・横浜の5拠点。支部間で物資のやり取りをしたり、情報を共有するなど、ネットワークのメリットを活動に生かしています。今後は、被災地のニーズに柔軟に対応しながら、仕事などに結び付く新たな支援も考えています。

事務所を移転しました

この度、いわてゆいっこ盛岡事務所を、盛岡市津志田から本宮に移転しました。物件につきましては、盛岡市のUR物件を無料で貸していただけることになりました。ご協力いただいた皆様には本当に感謝しております。ありがとうございました。

<新住所>
〒020-0866　岩手県盛岡市本宮5-10-20-120号棟
Tel:090-4476-7083

支援金をありがとうございました!

【支援金総合計(8/26現在)】　¥646,601
【支援金をいただいた方(7/29~8/26)】
近藤様、岩手県／合田様、岩手県／渡邉様

喪服・日用品バザーへの物資をありがとうございました!

7月30･31日に行いました、「日用品･喪服無料バザー」への物資をご提供頂いた方で、前号の新聞にお載せできなかった方のお名前をご紹介します。ご協力ありがとうございました!

北海道／出村様、北海道／札幌友の会　渡辺様、岩手県／高村様、秋田県／濱松様、茨城県／沼田様・内藤様・萩野谷様、千葉県／藤永様、埼玉県／泉山様、埼玉県／林様、東京都／山室様、神奈川県／逢坂様、神奈川県／田上様、神奈川県／森様、山梨県／(社)山梨県法人会連合会様、愛知県／冨文毛織様、愛知県／ラグラックス信和様、愛知県／三星毛糸様、愛知県／米田様、京都府／水原様、大阪府／石田様、兵庫県／坂本様

活動記録（7/27～8/26）

月	日（曜日）	活動内容
7	24（日）	復興バザー手伝い（盛岡市アイーナ）
	30（土）	日用品無料バザー（宮古市立磯鶏小学校体育館）
	31（日）	喪服無料バザー（宮古市立磯鶏小学校体育館）
8	2（火）	夢灯り作り（宮古市田老） 涼み台作り（宮古市田老仮設住宅）
	21（日）	無料バザー（宮古市近内地区雇用促進住宅）

支援金募集しております

被災地への支援活動に使う支援金を随時募集しております。無理のない範囲でご協力いただければと思います。
振込は下記口座までお願いします。
岩手銀行　津志田支店　店番／**070 普通預金**
口座番号／**2065288**　口座名義／**ゆいっこ盛岡支部**

※「ゆいっこ盛岡新聞」は、いわてゆいっこ盛岡ホームページよりpdfでご覧いただけます。郵送をご希望の方は電話やメールにて事務局にお知らせください。

助成 日本財団 The Nippon Foundation